



傍聴

ナマの議会を体感

中学生が議会傍聴

坂下中学校の2年生4名が役場に職場体験で訪れ、第3回定例会を傍聴しました。

初めて傍聴した感想を寄せてくれたのでご紹介します。

ぜひまた傍聴に来て下さい。



初めて議会を傍聴しました。議場に入った瞬間から緊張感が伝わってきました。

一つ一つの話し合いに真剣に意見を出し合っていました。町のために話し合っている議員さんたちがスゴイと感じました。
(遠藤 友香)

議場の傍聴席は議場がすぐ目の前で迫力がありました。

議員の方々が町の人たちのことを考えて話し合っていてカッコ良かったです。
また機会があったら傍聴したいと思いました。
(佐藤 慧太)

初めて議会を見ました。議場はテレビに出てくるような感じで、迫力がすごかったです。

議長さんを中心として町を良くしようと、一人ひとりが自分の意見を持って話をされていてすごいなと思いました。
(高橋 香乃)

議員さんたちのおかげでこの町は良くなっていると感じました。議場で生の議会を見られて、いい刺激となりました。「緊張」から「興味深さ」へと変わりました。
(西村 太我)



学ぶ

「広聴」の大切さを実感

山形県河北町来庁

8月24日、山形県河北町議会の議会運営委員会の皆様が来庁され、会津坂下町議会の取り組みである未来トークについて意見交換を行いました。

お互いの現状や悩みを共有し、予定時刻をオーバーするほどの質疑応答が出るなど、有意義な時間となりました。



会津坂下町議会の未来トークは、コロナ禍において2年間開催できず、昨年から少しずつ再開しておりました。

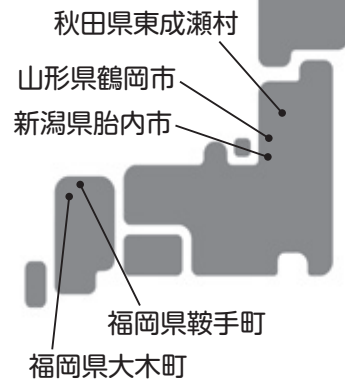
今回、河北町の皆さんと意見交換を行ったことで、改めて「広聴」意見を聞く事の大切さを実感しました。

今後も皆様のご意見を聞く未来トークを開催して参ります。ご依頼がありましたら、議員が伺いますので、議員、または議会事務局へお問い合わせください。

町の課題と向き合う



〈視察場所〉



総務産業建設常任委員会

7月4日～6日

住民の生命と財産を守る新庁舎

福岡県北部に位置する、人口約一万五千人の鞍手町では、現役場庁舎の老朽化（築64年経過）に加え、大規模な地震が発生したときに崩落の危険性があることなどから、役場庁舎の建て替えと周辺施設整備を



鞍手町で建設中の新庁舎



行う「新庁舎等建設事業」を進めています。建設に当たっては、役場庁舎が、町民の生命と財産を守る防災拠点としての役割を果たすことのできる庁舎であることを重視したと話されていました。

◎新庁舎のコンセプト

自然に溶け込む『大屋根』のもとにみんなが集う環境共生庁舎

◎鞍手町新庁舎建設のポイント

1. 安全・安心な暮らしを支える防災拠点として充実させる
2. バリアフリー対策
3. もっと使いやすく便利にすること（役場の手続きなどを、1カ所で出来るように）
4. 環境・省エネ対策
「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて有効な設備の導入
5. 財政状況を踏まえたコンパクトな施設
（目黒 克博議員・横山 智代議員）

捨てるだけのごみを農業に還元

大木町では「地域経済を活性化する循環のまちづくり」をスローガンに掲げており、

福岡県 大木町



生ごみや下水汚泥、し尿から液肥を生成し、農業に還元するという全国で初めてとなる取り組みを行っております。世界中の行政機関やNGOなどが視察に訪れている、持続可能なまちづくりの先進地です。

町の施策として「もったいない宣言」を公表し、ごみの資源化・プラスチックの資源化などに取り組み、町を良くしよう・未来を良くしようとの思いが込められています。その後「もったいない宣言2」として、暮らしの無駄をなくし、町の自然や資源を生かした持続可能なまちづくりに向け、町ぐるみの挑戦をさらに推進しています。

視察では、液肥を生成する処理施設「おき循環センターくるるん」を訪れ、液肥の生成過程や、実際にどのように農家へ提供しているかなどお話を伺いました。

（赤城 大地議員）

先進地に学び、見聞を広め

文教厚生常任委員会

7月26日～28日

学力が高い小さな村の
秘密を探る

秋田県 東成瀬村

塾もない、コンビニもない、小さな村の子ども達を学力日本一に育んだ先生たちの教育方針から学んできました。

・一人ひとりの子供を大事に。

全ての子どもを学校教育の外に置かないということ。

・村の子どもは村で育てる。

予測困難な時代に未来の作り手となる子どもを育成するという目標に向かい、学校で・家庭で・地域で何をすべきか、連携の素晴らしさが見られた。ボランティアなど地域の協力がたくさん見られた。

・協力する心・優しい心・奉仕の心などねらいを明確にした小中連携教育の充実。

特に「自主学習ノート」の活用がすば

らしかった。

1年生から6年生まで、整ったきれいな文字でノートの隙間なく書き込まれていた。



廊下に張り出されていた「自主学習ノート」には、友達からのアドバイスもついている。

町に戻らなくても、どこにいても東成瀬の子どもであり、世界で羽ばたいてほしいとおっしゃっていたことが印象に残りました。

(酒井 育子 議員)

処分していた「消化ガス」で発電

山形県 鶴岡市

鶴岡浄化センターでは、下水汚泥を発酵する時に出る消化ガスを燃料として利用し発電をしています。

消化ガスの発電利用にはコストがかかり、設備投資を回収することが困難と思われてきましたが、平成24年に国が再生可能エネルギーで発電した電気を一定価格で一定期間買い取ることを約束する固定価格買い取り制度（FIT制度）を活用することで民設民営による発電事業が開始されました。



発電装置を視察



鮎を育てる実験池

また、発電時に出る熱を農業用ハウスに使って冬でも野菜を育てたり、下水を処理する過程の中で脱水した汚泥から肥料を作り「つるおかコンポスト」として販売したりしていました。さらに、処理した栄養分が豊富な水は鮎の養殖に利用されていました。

(青木美貴子 議員)

部活動地域移行のお手本に

新潟県 胎内市

新潟県胎内市における部活動地域移行を視察研修しました。

胎内市は地域移行に向け、地域のスポーツ団体と連携した中学生スポーツ教室を体制の整った種目から開始し、現在は9種目となっています。

運営体制は主催が市教育委員会、事務局として「NPO法人スポーツクラブたいない」が事務を担当し、保護者の同意を得た市内在住の中学生が参加しています。

課題としては、参加者の会場までの交通手段や種目の拡大に伴う指導者への謝礼金不足、また指導者不足が挙げられました。

(物江 政博 議員)





導入に向け検討が進んでいる中学校の部活動地域移行。変わりつつある中学校の部活動について紹介しています。

今回は坂下中学校サッカー部顧問の橋谷田先生にお話を伺いました。

中体連 全会津地区優勝！



坂下中学校
サッカー部顧問
はしやだ とおる
橋谷田 亨 先生

今年度の坂下中サッカー部は、3年生が15名、2年生が4名、1年生2名の合計21名の部員数で活動しています。

3年生引退後は、サッカー競技規則の人数規定から、坂下中単独での大会参加ができず、同様の状況のチームと共に合同チームを結成して大会に参加しています。

一昨年度の中体連では全会津地区2位となり、県大会出場を果たすことができました。記録を振り返ると19年ぶりだったそうです。

また、今年度のチームは、昨年秋の新人戦と今年夏の中体連の2期連続で全会津地区1位となり、再度県大会にチャレンジすることができました。

坂下中の新たな伝統が根付き始めているような気がしています。

こうした成績の陰には、長きにわたって小学生段階の育成にご尽力いただけている「バンビィ」のコーチの方々の熱心なご指導があります。この会津坂下町ならではのすばらしい育成環境、そして毎日汗まみれのシャツと靴下を洗濯し、休日に試合会場に送迎してくれる保護者の方々の暖かなご支援のおかげです。「全力プレーで恩返しできるチーム」を目指し、サッカーを通してたくさんの努力と経験を積める日々を過ごさせたいと思います。



編集後記

異常な暑さがつづきましたが、ようやく秋らしくなってきました。

町民の皆様と議会をつなぐアイテムである「議会だより」も、現委員による発行は残り少なくなりました。親しみ易く、より伝わる紙面への改善を目指してきましたが、道半ばです。皆様の声が大きく反映できます「議会だより」となりますよう、工夫を重ねて参りますので、今後ともご協力をお願いいたします。

(小畑博司)



広報広聴特別委員会

委員長	小畑 博司
副委員長	横山 智代
委員	目黒 克博
委員	蓮沼 文明
委員	物江 政博